

平成31年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

平成31年4月23日

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) | | | |
|--|--|--|--|----|----|-------|
| より良く生きるための基礎・基本の習得(学力、社会性、人間性) (1) 家庭や地域社会との連携を強化し、21世紀の新生洛東高校として信頼される学校づくりに努め、次代の社会を担う人材の育成を目指す。 (2) 個人の責任と義務を尊重し、道徳性の高い行動力のある人間の育成に努める。 (3) 生涯にわたって学ぶための基礎・基本を習得し、社会の変化に対応できる能力や創造性に富む豊かな人間性や社会性の育成に努める。 (4) 勤労とボランティア精神の資質を養い、人権を尊重し、社会の一員としての自覚と行動ができる人間の育成に努める。 | | (1) 観点別評価にもとづく授業の改善と活性化を検討し、研修会も行ったが教科内での研究にとどまっておらず学校体制となるまでには至らなかった。来年度、生徒や保護者に、各単元学習でどういう力を身に付けられるのか、評価の基準は何かをわかりやすく提示する必要がある。それとともに、生徒が授業に主体的に取り組む必要性を感じるように、授業改革を進めていかなければならない。 (2) 生徒指導部を中心としたきめ細かな身だしなみ指導によって、校内ではおおむね落ち着いた身だしなみで生活できている。しかし、校外では以前と変わらずの身だしなみで登下校しているとの情報がある。来年度も、身だしなみについて粘り強く意識付けを行う必要がある。そして、本年度以上に全教員で指導を行う体制を整えていく必要がある。 (3) 学校幹線の就職は、早い時期からの度重なる指導により内定率100%を達成できた。しかし、就職・進学とともに、内定や合格後の学校生活に問題のある生徒が見られた。内定や合格がゴールになることがないよう、今まで以上に指導を継続していく必要がある。 (4) 公募・一般入試では、中堅私大難化による影響もあり苦戦した。模試や後期補習受講者が激減し、客観的なデータが乏しく自己分析ができないまま受験に臨む姿が見られた。受験に臨む心構えや、進学のメリットについて全体指導はもちろん、個別指導を粘り強く続けていく必要がある。また、就職・進学とも基礎学力は不可欠であり、毎日の学習・学校生活を卒業まで継続して大切にさせる取り組みが必要である。 (5) 特別支援コーディネーターを中心として個々の生徒のニーズに応じた教育的支援を行った。しかし、校内美化の面では不十分であった。生徒と共に学習環境の整備をしていくという視点で清掃指導の周知徹底を計画的に進めていく必要がある。 (6) 地域連携は計画していた以上の取組が実施できた。看護学校・外国語専門学校・小学校・地域住民から連携を有意義と思われ継続を望む声をたくさんいただき、生徒たちの学習への取組のモチベーションアップにつながっている。特に小高連携や医療福祉の探究活動で、生徒たちが試行錯誤を繰り返しながら自ら工夫し、受け手の立場に立ち考え、他者とつながる能力を育成することができた。来年度は他教科でも地域とつながる「探究」活動を模索していかなければならない。 | (1) 粘り強い全体指導に加え、教員が生徒と関わる時間を積極的に増やし、個別に具体的な指導が行える体制を整える。 (2) 継続した生徒の学習意欲の向上のために、観点別評価にもとづく授業の改善・工夫を行う。また、その手段の一つであるICT活用やアクティブラーニングの導入について教員個々が具体策を講じる。 (3) 基礎学力向上のために「わかる授業」を目指した指導方法の工夫と、家庭学習の習慣化を図るための方法を考え実践する。 (4) 早期から生徒の進路希望を把握した上で、個々の学力・状況に応じたアドバイス・面談指導を加え、それぞれのレベルに応じた学力の伸長を達成させる。 (5) 規範意識・環境意識を伴った社会に通用するコミュニケーション能力を育成する。またすべての教職員が、学校生活の全ての取組を通して生徒にそれらの意識の重要性を体感させる。 | | | |
| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 |
| | | | 中間 | 最終 | 総合 | |
| 教育課程 学習指導 (教務部) | 新学習指導要領に基づく教育課程の編成について検討する。 | ・特にプログレスコースにおいては高大接続改革を視野に入れた教育課程の編成を行う。 ・2学年での総合的な探究の時間について、各選択科目での実施に向けた内容を検討する。また、1年生は次年度に向けて総合的な探究の基礎を築く内容を実施する。 | | | | |
| | 授業の質向上および、生徒の基礎学力定着を図る。 | 観点別評価にもとづく授業の改善と活性化を検討し、生徒が主体的に取り組む協働学習を取り入れた授業改革を進める。また、Classiの導入や、電子黒板などのICT活用による授業改善について検討する。 | | | | |
| | 教育計画の適正な実施を図る。 | 各分掌の計画を調整し、充実した教育計画の作成・実施に努める。また、作成した教育計画を見直し、改善を図る。 | | | | |
| 特色推進 広報活動 (総務企画部) | 全教育活動の中で、特に探究活動を取り入れた授業を中心に、中学生・保護者・地域へ積極的な広報を行う。 校内のICT活用を推進し、授業改善に向けた教員の取り組みを支援する。 | 社会に通用するコミュニケーション能力の育成や学習意欲の向上に向けて取り組まれている授業について、学校内外に向けて広報する。 ICT活用やClassiの運用及び活用を推進するために関係分掌と連携を密にとり、活用事例を集約する。 | | | | |
| | 身だしなみを中心とした基本的な生活習慣を確立するために、全教職員体制で指導を行う。 問題行動や非行の防止に向けて、自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。 | 服装や頭髪、化粧、装飾品など身だしなみについて、全教職員で粘り強く指導を行う。また、全教職員が一致した指導ができるよう、指導留意点や細かな部分について周知徹底を図っていく。 生徒指導部だよりを定期的に発行し、生活上の注意事項(交通ルールや交通マナーも含む)や盗難防止等の啓発指導を適宜行い、自己管理能力を高めた社会性を育成する。 | | | | |
| 生徒指導 (生徒指導部) | いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対応する。 | いじめに向かない態度・能力を育成するために、人権学習はもとよりあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生の際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。 | | | | |
| | 学校紹介を希望する生徒の、就職内定率100%を目指す。 | 就職指導は、2年生秋から実施し高校生の就職制度を理解させるとともに、就職に向けて社会の常識を身につけさせ学習に全力で取り組ませる。 社会人としてのマナー、基本技能の修得や対人能力の向上を身につけさせる。さらに実社会で対応ができるようロールプレイングを用いて実践を繰り返し練習させる。 面接指導を徹底する。入退出動作の反復練習、文で返事ができる姿勢、言葉のキャッチボールができるまで練習させる。また、社会人の面接官をお招きし、本番ムードでの面接練習の機会を設定する。 | | | | |
| | 進学希望者の、希望実現率100%を目指す。 | 学年部・教科と連携し、学力実態などの情報共有を図り、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。 入試に対応できるように、適切な進学補習講座、面接対策講座を設定し定例で開催する。また、志望理由書書き方講座、小論文対策の説明会・模擬試験を実施する。 進学に対する意識を高めるために、模擬試験を積極的に受ける姿勢を育て、その結果やデータを活用できるようにさせる。 大学入試改革に備え、研修会を実施し情報の収集と提供を図る。 | | | | |
| 学校保健 学校安全教育 特別支援 (保健部) | 薬物に対する正しい知識と理解を深める。 | 各学年において、薬物乱用防止教室を実施する。 | | | | |
| | 生徒の理解と支援の充実を図る。 | 関係者との連携を密に図り、課題のある生徒に対しスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーとともに支援を行う。 | | | | |
| | 環境問題に対する意識の向上を図る。 | ゴミ分別の徹底を図り、ゴミ排出量を前年度の10%削減を目指す。 | | | | |
| 読書指導 視聴覚教育 (図書視聴覚部) | 生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。 | 蔵書構成の適正化を進め、蔵書の更新に努める。魅力的な図書を紹介する企画を積極的にを行い、読書啓発のため、図書館だより、図書委員会だよりを定期的に発行する。 利用者のニーズを把握し、教科と連携を図りながら、生徒の学習支援を行う。 視聴覚機器活用のための説明会を実施し、授業の利便を図る。 | | | | |
| | 施設・設備の維持・安全管理をはかる。 | 「安心・安全」を最優先に週に1回校内巡視し、危険箇所の早期発見・対処を行う。 | | | | |
| 教育環境整備 (事務部) | 特色ある教育活動や広報活動等の実施のための学校予算の効果的執行を行う。 | 各分掌・教科のヒアリングを実施し効果的な配分と執行を行う。 節電等呼び掛け、光熱水費の削減に取り組み、使用量前年度比3%減を目指す。 | | | | |
| | 授業に真面目に取り組むこと、時間やルールを守ることに指導を徹底し「やるべきことをしっかりやる」姿勢を持たせることにより、「自分ができる」という自信を持たせる。 | (1) 欠席・遅刻生徒について保護者連絡を密に行うとともに、アルバイト原則禁止について学年としての指導を行い、学校定着を図る。 (2) 授業態度に問題のある生徒について学年としての指導を行うとともに、教務部、生徒指導部と連携して段階的な指導を行い、授業を大切にさせる姿勢を身に付けさせる。 (3) 学年全体で身だしなみやあいさつについて指導を徹底する。 (4) 学年全体で検定試験を受験させ、学習習慣の定着を図る。 | | | | |
| 第2学年部 | 生徒個々が周囲から期待される事を理解させ、継続して目標に向け努力させる。一人一人の努力が良い集団作りに繋がることを理解させる。良い集団が生徒個々の更なる成長に向かわせる相乗効果で、納得のいく充実感を体験させる事を重点目標とする。 | 学習時間を増やすため、教科と連携し小テストや宿題に取り組ませる。また、ショート学習を有効に活用したり、週末及び長期休業日に学年課題に取り組ませ、学習が出来る集団を作る。そして、生徒個々に応じた資格・検定の修得に積極的に取り組ませる。 特別活動に継続して取り組む集団を育成する。そのため、生徒の個性により自分の立ち位置を考えさせ、周囲と協力して取り組ませる。ボランティア活動は校内の清掃に留まらず、地域からの期待に応えられ、連携できる生徒を育成する。 身だしなみを自発的に整える意識を高めさせる。校内のみならず、将来において進路実現の場面を意識し、校外でも胸の張れる態度を育成する。社会で通用する規範意識を育て、人権の尊重が出来る集団を育成する。 | | | | |
| | 「チーム3年」として、進路実現に向けて努力し、進路決定後も規則正しい学校生活を送るとともに、他者を応援する環境を整える。 | ・身だしなみ指導を生徒指導部と連携し、引き続き行う。 ・定期試験毎に、学校遅刻の回数が、授業日の1/7以上の生徒に対し指導し、基本的な生活習慣を定着させる。 ・積極的に進路指導部主催の説明会や補習に参加させるとともに、模擬試験も受験させることで、就職・進学とも見通しをもって取り組ませる。 ・定期的な学習時間調査などを通して、自学・自習の習慣を身につけさせ、進路実現へつなげる。 | | | | |

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

| | |
|-----------------|--|
| 学校関係者評価委員会による評価 | |
| 次年度に向けた改善の方向性 | |